



成田の祭囃子は江戸囃子と佐原囃子が鳴り響く。成田から西は江戸囃子、東は佐原囃子。2種類のお囃子を聞けるのは成田だけ。本町は江戸囃子で、山車の上部が360度回転する。



今年の当番町仲之町は、平成6年の当番町時から総引きの際、牛に山車を曳かせていたが、数年前から行っていない。



初日昼過ぎの安全祈願法楽に10台の山車・屋台が集まり、中日の朝一番はJR成田駅前に集まり出囃子披露、最終日は総引きの後に本堂前で総踊りと何度も一堂に会する祭りも珍しい。



最終日の夜、“屋台・砂切”のお囃子が聞こえると祭りの終幕。成田で最初の夏祭りが終わると梅雨が明け、各地区の祭りへと続く。3日間の興奮が取まらないうちに、若者は来年の祭りへと動き出す。新たな感動を求めて…。



イキでイナセな若者たちの3日間

# 成田祇園祭

—江戸囃子と佐原囃子の融合—

今年も成田で最も暑い季節がやって来た。成田祇園祭、以前は7月7・8・9日で行われていたが、各地の祭りが土日開催されるように変わる中、成田も平成13年から7月8日に最も近い金土日に開催されるようになった。今年7月4日(金)・5日(土)・6日(日)、初日の早朝に激しい雨が降ったほかは好天に恵まれ、例年以上の人数(43万人)に一層若者たちは勢いづいた。



「成田祇園祭」正式には「成田山祇園会」といい、奥の院大日如来の祭礼。古くは享保6年(1721年)には行われていたとの記録があり、約300年の歴史がある。当時は、JR成田駅脇の湯殿山権現社の祭礼で旧暦の6月8日に行われていた。



奥の院を出た御輿は初日の晩、権現社に仮泊する。



各町の先鋒は薬師堂前のポールで仲之町の大坂を通過する順番を決める。どこの山車・屋台が早く何度も上げられるか、腕の見せ所。



元々綺麗どころが屋台の上で手踊りを踊っていた上町の屋台。平成7年の当番町の時だけ60年振りに復活。今年の手踊りはそれ以来のもの。



山車・屋台を先導する手古舞は小学生の女の子。江戸時代に芸妓が男装で参加したことが始まり。

※広報課では、成田祇園祭の昔の写真を探しています。特に戦前の写真がありましたらぜひお貸しください。